

## Working Paper Series (J)

No.7

30代後半を含めた近年の出産・結婚意向

Recent Birth and Marriage Intention including the late 30s

鎌田 健司

Kenji KAMATA

2013年6月

[http://www.ipss.go.jp/publication/j/WP/IPSS\\_WPJ07.pdf](http://www.ipss.go.jp/publication/j/WP/IPSS_WPJ07.pdf)



〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6階

<http://www.ipss.go.jp>

本ワーキング・ペーパーの内容は全て執筆者の個人的見解であり、国立社会保障・人口問題研究所の見解を示すものではありません。

## 30代後半を含めた近年の出産・結婚意向

鎌田 健司

(国立社会保障・人口問題研究所)

### 概要

本稿は「出生動向基本調査」にて調査を行っている初婚夫婦ならびに未婚者の出産・結婚意向について、30代後半を含めた近年の動向についてとりまとめることを目的としている。これまで出生動向基本調査の独身者調査の集計は18～34歳を対象に行われてきたが、未婚化が進展し30代後半での未婚者が増加していることや2010年時点の調査において35～39歳の年齢層は人口規模の大きい第二次ベビーブーマー世代に相当することから、それらの年齢層を含んだ主要な集計結果について再集計を行った。

晩婚化・晩産化が進展する中で、30代後半を含めた統計はより重要性を増すと考えられるため、本稿で行ったような分析の必要性は今後さらに高まるものと考えられる。

### 1. 「出生動向基本調査」の概要

「出生動向基本調査」は他の公的統計では把握することのできない結婚ならびに夫婦の出生力に関する現状と背景を把握する目的で調査を行い、厚生労働政策や将来人口推計への基礎資料の提供を行っている。本調査は1940年（昭和15年）に「第1次出産力調査」として調査が開始された。第2回調査は戦後1952年（昭和27年）に行われ、その後5年おきに調査が実施された。1982年に行われた第8回調査（昭和57年）からは35歳未満の独身者についても調査が開始され、結婚年齢の上昇の原因を解明する目的で、結婚観や子供観など意識を中心に調査されている。2005年に行われた第13回調査（平成17年）からは国勢調査年に調査が行われるようになった。最新の結果は2010年に行われた第14回調査である。

これまでの出生動向基本調査の調査対象や標本設計等の推移を表1-1に示した。初期の調査では、典型的な地域を選定して調査を行う典型調査を中心に調査が行われてきた。とりわけ工業化の進展と出生力の関連に焦点が当てられ、都市と地方の差を重視した調査結果が示されている。第2回調査では総理府統計局の労働力調査の一環として調査が行われ、層別抽出による全国無作為抽出調査での全国標本を対象とした調査となったが、第3回調査では再び工業化分類による部分的抽出による調査法に戻り、第4回～第5回調査でも典型調査であった。第6回からは全国将来推計人口の基礎資料の収集を目的として、第2回調査以降はじめて全国無作為抽出調査を行い、その後の調査はすべて同方法に依っている。調査対象は、夫婦調査では第1回～第2回、第7回では全国の夫婦とし、それ以外の調査では妻の年齢が50歳未満の夫婦を対象としている。一方、第8回調査より始まった独身者調査では、第8回と第9回調査では調査対象が18歳以上35歳未満の独身者であり、35歳から50歳未満の独身者が調査され始めたのは第10回調査以降である。

表 1-1 出生動向基本調査の調査設計等の推移

調査名	区分	調査年月日	対象	標本設計	有効回答数 (当時)	データの サンプル 数	妻年齢 50歳未満
第1次出産力調査	夫婦	昭和15 (1940) 年 1月20日	全国の夫婦	典型調査 <sup>1)</sup>	71,606	-	-
第2次出産力調査	夫婦	昭和27 (1952) 年 7月 1日	全国の夫婦	層別抽出 <sup>2)</sup>	13,031	11,451	8,841
第3次出産力調査	夫婦	昭和32 (1957) 年11月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	部分的抽出 <sup>3)</sup>	24,990	24,884	24,884
第4次出産力調査	夫婦	昭和37 (1962) 年 7月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	典型調査 <sup>4)</sup>	12,720	12,538	12,538
第5次出産力調査	夫婦	昭和42 (1967) 年 7月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	典型調査 <sup>5)</sup>	14,347	12,720	12,720
第6次出産力調査	夫婦	昭和47 (1972) 年 6月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本 <sup>6)</sup>	9,182	9,246	9,246
第7次出産力調査	夫婦	昭和52 (1977) 年 6月 1日	全国の夫婦	全国標本	14,064	14,064	10,368
第8次出産力調査	夫婦	昭和57 (1982) 年 6月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本	8,433	8,433	8,359
第9次出産力調査	夫婦	昭和62 (1987) 年 6月 4日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本	9,522	9,522	9,522
第10回出生動向基本調査	夫婦	平成 4 (1992) 年 6月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本	9,908	9,908	9,908
第11回出生動向基本調査	夫婦	平成 9 (1997) 年 6月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本	8,148	8,148	8,148
第12回出生動向基本調査	夫婦	平成14 (2002) 年 6月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本	7,916	7,916	7,916
第13回出生動向基本調査	夫婦	平成17 (2005) 年 6月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本	6,836	6,836	6,836
第14回出生動向基本調査	夫婦	平成22 (2010) 年 6月 1日	妻の年齢50歳未満の夫婦	全国標本	7,847	7,847	7,847
第8次出産力調査	独身者	昭和57 (1982) 年 6月 1日	18歳以上35歳未満の独身者	全国標本	4,987	4,987	-
第9次出産力調査	独身者	昭和62 (1987) 年 6月 4日	18歳以上35歳未満の独身者	全国標本	6,074	6,074	-
第10回出生動向基本調査	独身者	平成 4 (1992) 年 6月 1日	18歳以上50歳未満の独身者	全国標本	9,636	9,636	-
第11回出生動向基本調査	独身者	平成 9 (1997) 年 6月 1日	18歳以上50歳未満の独身者	全国標本	9,407	9,407	-
第12回出生動向基本調査	独身者	平成14 (2002) 年 6月 1日	18歳以上50歳未満の独身者	全国標本	9,686	9,686	-
第13回出生動向基本調査	独身者	平成17 (2005) 年 6月 1日	18歳以上50歳未満の独身者	全国標本	8,734	8,734	-
第14回出生動向基本調査	独身者	平成22 (2010) 年 6月 1日	18歳以上50歳未満の独身者	全国標本	10,581	10,581	-

1)内閣統計局の協力によって、一定の職業(俸給生活者・賃金労働者・農村在住者・中小工業主等)と地域を作為的に抽出  
2)総理府統計局の労働力調査の一環として、層別抽出(全国の市部36, 郡部58に層別し、各層から1市郡を選択)による全国無作為抽出法により抽出  
3)46都道府県を①4大工業地帯(7), ②その他の顕著な工業化(11), ③やや工業化(11), ④農業偏重(17)に層化し、各層から22県を抽出  
4)巨大都市, 大都市, 中都市, 小都市, 工業的都市, 炭鉱都市, 近郊都市, 商品作物農村, 山村, 漁村から35地区を12の都道府県から選出し15国勢調査地区を無作為に抽出  
5)4)の区分から20地区を選出し, 東京から29, その他の地区から25国勢調査地区を無作為に抽出  
6)全国将来推計人口の基礎資料収集のため, 第2次出産力調査以降はじめての全国無作為抽出調査でありその後の調査の原型  
(資料)人口問題研究所(1989)「5. 出産力調査」『創立五十周年記念誌』平成元年8月, pp. 30-37.

表 1-2 性・年齢別未婚率の推移 (1970-2010年)

年 齢	1970年	1980年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
男 性							
15~19	99.3%	99.7	<b>99.7</b>	99.7	99.5	99.6	99.7
20~24	90.1	91.8	93.6	<b>93.3</b>	92.9	93.5	94.0
25~29	46.5	55.2	65.1	67.4	<b>69.4</b>	71.4	71.8
30~34	11.7	21.5	32.8	37.5	42.9	<b>47.1</b>	47.3
35~39	4.7	8.5	19.1	22.7	26.2	31.2	<b>35.6</b>
40~44	2.8	4.7	11.8	16.5	18.7	22.7	28.6
45~49	1.9	3.1	6.8	11.3	14.8	17.6	22.5
女 性							
15~19	97.9	99.0	<b>99.3</b>	99.3	99.1	99.2	99.4
20~24	71.7	77.8	86.0	<b>86.8</b>	88.0	88.7	89.6
25~29	18.1	24.0	40.4	48.2	<b>54.0</b>	59.1	60.3
30~34	7.2	9.1	13.9	19.7	26.6	<b>32.0</b>	34.5
35~39	5.8	5.5	7.5	10.1	13.9	18.7	<b>23.1</b>
40~44	5.3	4.4	5.8	6.8	8.6	12.2	17.4
45~49	4.0	4.5	4.6	5.6	6.3	8.3	12.6

(資料) 総務省統計局『国勢調査報告』。配偶関係不詳を除く、年齢別未婚人口が年齢別人口に占める割合。  
注：太枠・太字は第二次ベビーブーム世代を含む年齢層。

このように調査対象の範囲の拡大がなされたものの、本調査の概要や報告書においては時系列比較の観点から、18歳以上35歳未満に限定した集計を行っている。

本稿では、概要や報告書では集計されていない35歳から39歳を含めた集計結果について、主要な統計表について再集計を行うことを目的とする。2010年時点で30代後半の年齢層は第二次ベビーブーム世代<sup>1)</sup>に相当し、人口規模は大きいものの20代を通じて就職氷河期に直撃し、非正規雇用化のあおりを受けた世代でもあり、未婚率は2010年で男性35.6%、女性23.1%と高い水準となっている(表2)。「失われた20年」<sup>2)</sup>を過ごした第二次ベビーブーム世代は未婚化の進展や夫婦出生率の低下傾向を見せたことによって、第三次ベビーブームを引き起こすことができなかったが(人口学研究会 2010)、2006年以降の出生率回復においては一部その牽引役となった。このように、人口規模が大きく出生率への寄与も大きい世代を含めた、1990年代からの結婚・出産に関する主要な統計表について再集計を行い、考察していきたい。

## 2. 未婚者の結婚観

### 2-1. 生涯の結婚意思

はじめに未婚者の結婚観として、生涯の結婚意思についてみていこう。独身者調査では、生涯の結婚意思について、「いずれ結婚するつもり」か、それとも「一生結婚するつもりはない」のかを二者択一で尋ねている。18~39歳までの未婚者が「いずれ結婚するつもり」とする生涯の結婚意思は、2010年の第14回調査では男性84.8%、女性87.7%と高い水準である(表2-1)。1992年が男性89.4%、女性89.2%であったことから考えると男性で5ポイント程度低下しているものの依然として高い水準にある。一方で「一生結婚するつもりはない」と回答する男性は2000年代以降増加傾向にあり、2010年では1割を超えた。

表2-1 未婚者の生涯の結婚意思(第10回~第14回調査)

生涯の結婚意思		第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)
【男 性】	いずれ結婚するつもり	89.4%	85.5	86.5	86.4	84.8
	一生結婚するつもりはない	5.3	6.7	5.7	7.5	10.4
	不詳	5.3	7.8	7.8	6.0	4.8
	総数(18~39歳) (集計客数)	100.0 (4,533)	100.0 (4,269)	100.0 (4,220)	100.0 (3,551)	100.0 (4,280)
【女 性】	いずれ結婚するつもり	89.2	88.3	87.6	88.8	87.7
	一生結婚するつもりはない	6.1	5.5	5.3	6.5	8.0
	不詳	4.7	6.2	7.1	4.8	4.3
	総数(18~39歳) (集計客数)	100.0 (3,785)	100.0 (3,761)	100.0 (3,705)	100.0 (3,319)	100.0 (3,833)

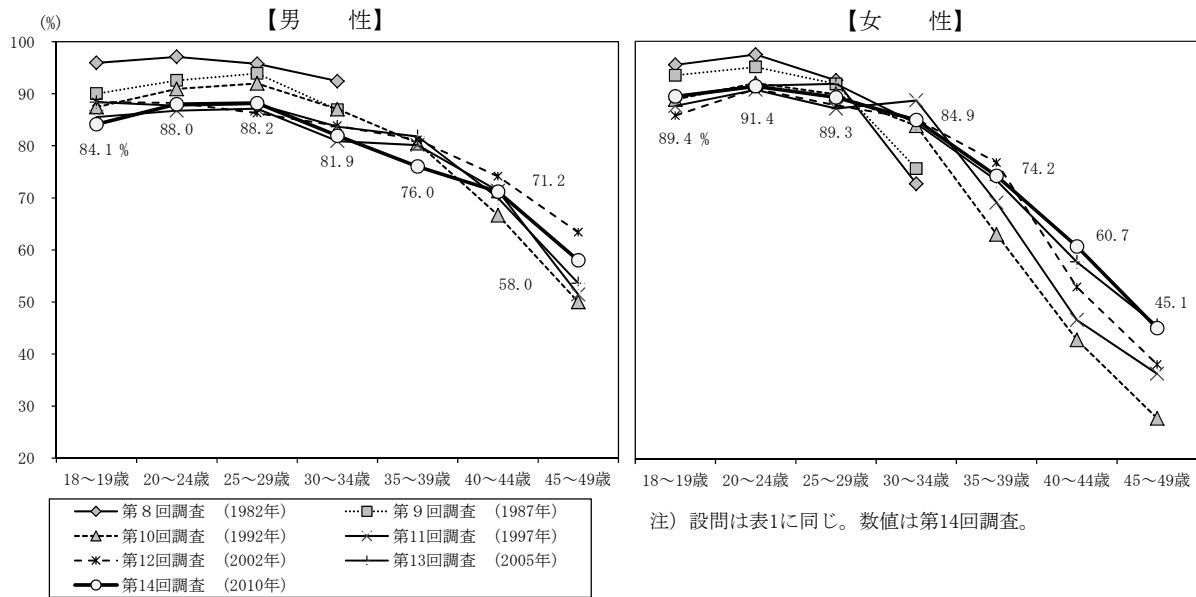
注：対象は18~39歳未婚者。

設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」

1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない

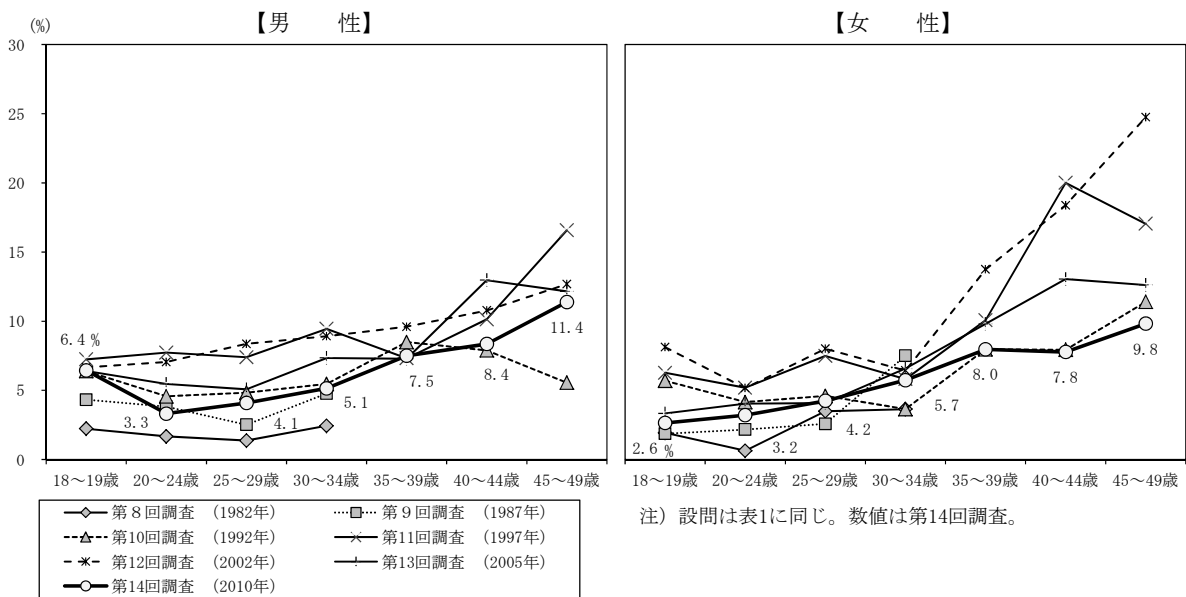
年齢別にみると（図 2-1、2-2）、「いずれ結婚するつもり」と回答する割合は 30 代後半を過ぎると急激に減少し、「一生結婚するつもりはない」と回答する割合が増加する。ただし、第 10 回調査（1992 年）と比較すると、女性では 30 代後半からの低下する程度は緩和されてきており、1992 年には 35～39 歳で 63.0%、40～44 歳は 42.9%、45～49 歳は 27.8%であったものが、2010 年では同 74.2%、60.7%、45.1%となっており、30 代後半以降での結婚意思の増加がみられる。これは、晩婚化の進行にともなう当該年齢層における未婚率の増加で説明でき、結婚意思をもつ未婚者が高い年齢に至るまで未婚にとどまる最近の傾向を反映していると解釈できる（国立社会保障・人口問題研究所 2012a）。

図 2-1 調査別・年齢階級別にみた「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者の割合



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所 (2012a) p. 17 表 1-2 を図に加工して再掲。

図 2-2 調査別・年齢階級別にみた「一生結婚するつもりはない」と回答した未婚者の割合

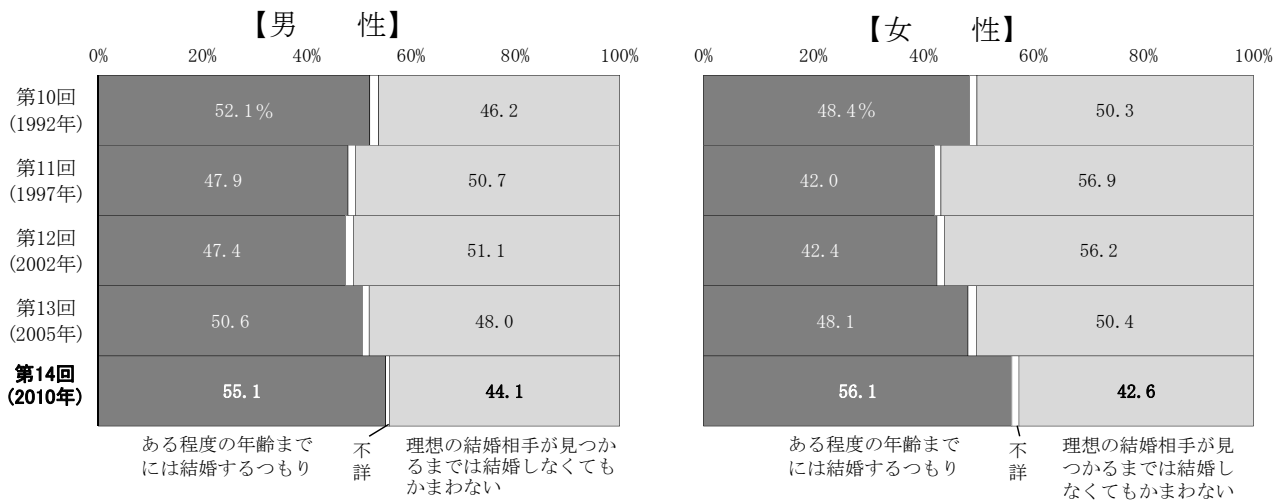


(資料) 国立社会保障・人口問題研究所 (2012a) p. 17 表 1-3 を図に加工して再掲。

## 2-2. 結婚に対するこだわり方

結婚に対するこだわり方として、生涯の結婚意思を「いずれ結婚する」と回答した未婚者に対して、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」（年齢重視派）なのか「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」（理想重視派）に分けて尋ねている。これによって、前者は結婚すること自体を重視する必然型、後者は結婚の内容にこだわる選択型に分けることができる。18～39歳の未婚者の推移を示しているのが図2-3である。全体の傾向は年齢重視派と理想重視派はおおむね拮抗しているものの、近年は年齢重視派が増加傾向にある。男性は第10回調査（1992年）では年齢重視派が5割を超えていたが、その後、理想重視派が増加した。第13回調査（2005年）において再び5割を超え、第14回調査（2010年）年では年齢重視派が55.1%と、結婚すること自体を重視する必然型が大きく増加した。女性では、第11回（1997年）、第12回調査（2002年）において理想重視派がおよそ5割強とやや多い傾向を示していたが、第14回調査（2010年）では一転して年齢重視派が56.1%となり、男女ともに結婚すること自体を重視する必然型が増加した。

図2-3 調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方



注：対象は「いずれ結婚する」と回答した18～39歳の未婚者。

設問：「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」

1. ある程度の年齢までには結婚するつもり
2. 理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

年齢別にみると（表2-2）、第10回調査（1992年）では20代は年齢重視派がやや多いのに対して30代になると一転して理想重視派が増加し、その傾向は女性に顕著である。第11回（1997年）、第12回調査（2002年）では、20代女性も理想重視派が過半数を超える傾向がみられた。男性でも20代後半からは理想重視派が多くなる。それが第13回調査（2005年）から再び20代は年齢重視派、30代で理想重視派という傾向に戻る。ただし、30代女性の理想重視派の割合が減少したため、全体として年齢重視派が過半数を超えるようになった。第14回調査（2010年）では第13回調査（2005年）の傾向が継続しているとみることができる。

表 2-2 調査・年齢別にみた、結婚年齢重視／理想の相手重視の構成

調査／年齢		男性					女性				
		総数 (客体数)	ある年齢までには結婚する	理想の相手を待つ	不詳	総数 (客体数)	ある年齢までには結婚する	理想の相手を待つ	不詳		
第10回調査 (1992年)	総数	100.0% (4,248)	51.4	46.7	1.9	100.0 (3,454)	47.6	50.8	1.6		
	39歳未満小計	100.0 (4,051)	52.1	46.2	1.7	100.0 (3,378)	48.4	50.3	1.3		
	18～19歳	100.0 (739)	49.9	48.7	1.4	100.0 (780)	55.0	44.0	1.0		
	20～24歳	100.0 (1,673)	55.2	43.4	1.4	100.0 (1,640)	51.2	47.4	1.4		
	25～29歳	100.0 (953)	53.3	44.8	1.9	100.0 (664)	44.3	54.5	1.2		
	30～34歳	100.0 (430)	47.7	50.0	2.3	100.0 (207)	26.6	72.0	1.4		
	35～39歳	100.0 (256)	41.0	55.9	3.1	100.0 (87)	19.5	78.2	2.3		
第11回調査 (1997年)	総数	100.0 (3,902)	46.5	51.8	1.7	100.0 (3,402)	41.4	57.5	1.2		
	39歳未満小計	100.0 (3,650)	47.9	50.7	1.4	100.0 (3,321)	42.0	56.9	1.1		
	18～19歳	100.0 (531)	47.6	51.2	1.1	100.0 (531)	44.3	54.8	0.9		
	20～24歳	100.0 (1,460)	51.0	48.2	0.8	100.0 (1,591)	46.9	52.2	0.9		
	25～29歳	100.0 (1,001)	49.7	48.9	1.5	100.0 (791)	40.6	58.2	1.3		
	30～34歳	100.0 (428)	38.8	58.6	2.6	100.0 (305)	25.2	72.8	2.0		
	35～39歳	100.0 (230)	38.3	58.3	3.5	100.0 (103)	15.5	81.6	2.9		
第12回調査 (2002年)	総数	100.0 (3,958)	46.4	52.0	1.6	100.0 (3,356)	41.4	57.2	1.5		
	39歳未満小計	100.0 (3,651)	47.4	51.1	1.5	100.0 (3,247)	42.4	56.2	1.4		
	18～19歳	100.0 (624)	47.6	50.5	1.9	100.0 (507)	50.5	47.9	1.6		
	20～24歳	100.0 (1,240)	50.2	48.9	1.0	100.0 (1,267)	48.2	50.2	1.6		
	25～29歳	100.0 (970)	48.6	50.1	1.3	100.0 (888)	42.2	57.2	0.6		
	30～34歳	100.0 (555)	43.1	54.8	2.2	100.0 (423)	24.1	74.5	1.4		
	35～39歳	100.0 (262)	39.3	58.8	1.9	100.0 (162)	21.0	75.9	3.1		
第13回調査 (2005年)	総数	100.0 (3,355)	49.1	49.4	1.5	100.0 (3,086)	46.5	52.0	1.5		
	39歳未満小計	100.0 (3,069)	50.6	48.0	1.3	100.0 (2,946)	48.1	50.4	1.5		
	18～19歳	100.0 (373)	52.3	46.1	1.6	100.0 (484)	50.6	48.1	1.2		
	20～24歳	100.0 (899)	52.8	46.3	0.9	100.0 (1,086)	54.9	43.8	1.3		
	25～29歳	100.0 (902)	54.9	43.6	1.6	100.0 (766)	50.4	47.9	1.7		
	30～34歳	100.0 (558)	45.5	53.0	1.4	100.0 (423)	33.1	65.5	1.4		
	35～39歳	100.0 (337)	40.1	58.5	1.5	100.0 (187)	26.7	70.6	2.7		
第14回調査 (2010年)	総数	100.0 (4,134)	53.0	45.9	1.1	100.0 (3,603)	53.6	44.9	1.4		
	39歳未満小計	100.0 (3,630)	55.1	44.1	0.8	100.0 (3,361)	56.1	42.6	1.3		
	18～19歳	100.0 (366)	54.6	44.5	0.8	100.0 (474)	59.5	39.9	0.6		
	20～24歳	100.0 (1,196)	58.8	41.1	0.2	100.0 (1,253)	64.8	34.0	1.2		
	25～29歳	100.0 (949)	58.4	40.1	1.5	100.0 (799)	57.1	42.2	0.8		
	30～34歳	100.0 (653)	52.7	46.7	0.6	100.0 (518)	44.0	54.4	1.5		
	35～39歳	100.0 (466)	42.9	56.0	1.1	100.0 (317)	33.8	62.8	3.5		
40～49歳	100.0 (504)	37.9	58.7	3.4	100.0 (242)	19.8	76.4	3.7			

注：対象は「いずれ結婚する」と回答した未婚者。設問：図 2-4 に同じ。

### 2-3. 当面の結婚に対する意欲

ここまでは生涯の結婚意思について 18～39 歳の未婚者の結婚観をみてきたが、当面の結婚に対する意欲について、生涯の結婚意思をもつ未婚者に対して、調査時点から 1 年以内の結婚について「結婚したい」、「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」、「まだ結婚するつもりはない」かについて尋ねている。18～39 歳の未婚者が 1 年以内に結婚したいと回答した割合は（表 2-2）、男性では第 14 回調査（2010 年）で 8.9%、女性で 12.8%、まだ結婚するつもりはないと回答する未婚者は男性で 51.2%（2010 年）、女性で 42.5%（2010 年）であることから、未婚者の約半数は当面の結婚の意欲がないことがわかる。ただし、第 14 回調査では若干増加している。

年齢別にみると（表 2-2）、1 年以内に結婚したいと回答する割合は 20 代後半から 10% を超え、特に第 14 回調査（2010 年）における 30 代女性はおよそ 20% と顕著な増加がみられる。また結婚するつもりはないと回答する未婚者は、年齢が低いほど高い割合を示し、女性より男性の方が高い傾向を示している。

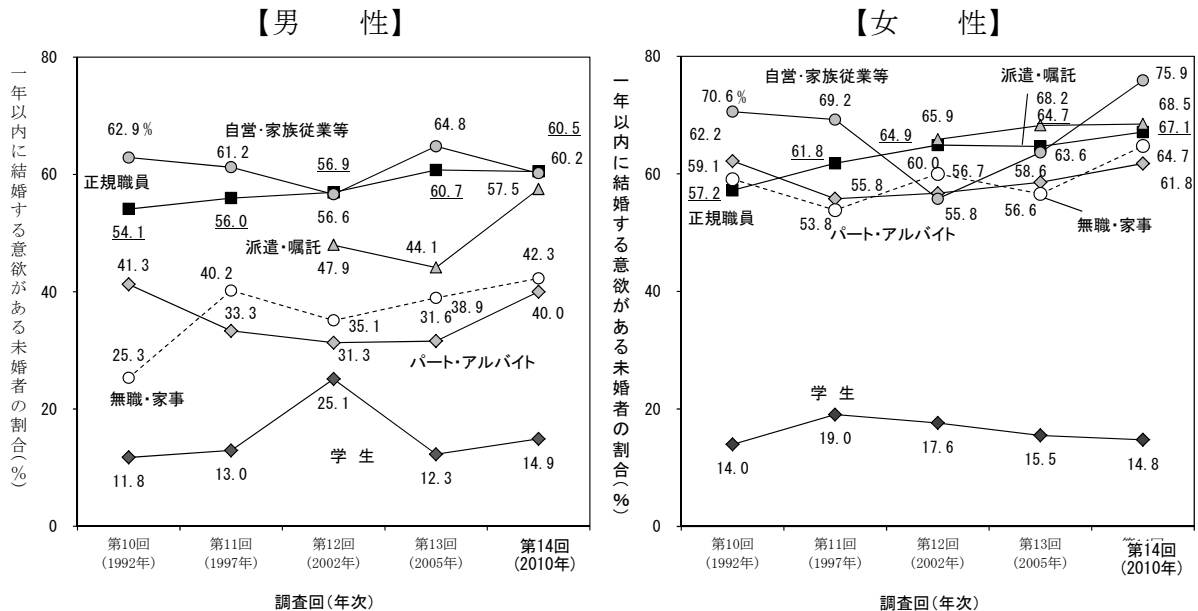


表 2-3 調査・年齢別にみた、一年以内の結婚意思の構成

	男 性					女 性				
	第10回調査 (1992年)	第11回調査 (1997年)	第12回調査 (2002年)	第13回調査 (2005年)	第14回調査 (2010年)	第10回調査 (1992年)	第11回調査 (1997年)	第12回調査 (2002年)	第13回調査 (2005年)	第14回調査 (2010年)
1年以内に結婚したい										
総 数	10.1%	9.7	8.4	8.9	9.3	10.2	10.5	12.0	11.6	12.8
39歳未満小計	9.7	9.3	8.1	8.5	8.9	10.3	10.4	12.2	11.8	12.6
18～19歳	1.2	1.5	1.3	1.6	0.8	3.7	2.1	2.8	2.5	2.3
20～24歳	6.0	5.9	5.1	4.0	5.4	9.0	8.8	9.8	8.7	8.3
25～29歳	15.8	14.9	12.8	11.4	11.4	19.9	16.3	18.4	18.8	17.0
30～34歳	18.8	15.4	12.6	13.1	14.5	12.6	16.1	18.4	17.0	20.3
35～39歳	19.9	13.9	11.5	13.1	11.4	13.8	17.5	11.1	13.9	21.1
40～49歳	17.8	15.1	12.1	12.2	12.1	5.3	11.1	4.6	7.9	15.7
理想の相手ならしてもよい										
総 数	33.4	37.3	39.2	40.2	41.8	39.1	42.2	42.8	42.3	45.2
39歳未満小計	32.0	35.3	36.6	37.4	38.7	38.4	41.8	41.8	40.5	43.6
18～19歳	11.5	17.1	27.6	11.8	13.1	18.8	20.0	19.9	17.4	16.0
20～24歳	20.6	25.0	22.5	23.7	24.3	33.7	36.5	32.9	29.7	33.2
25～29歳	43.8	41.0	40.4	40.1	42.1	58.7	55.0	51.1	50.8	54.9
30～34歳	64.9	61.2	58.2	56.3	55.4	71.5	63.9	64.1	62.4	64.1
35～39歳	66.4	69.6	64.9	63.5	65.0	69.0	68.0	71.0	71.7	63.4
40～49歳	61.9	66.7	70.0	71.0	64.5	67.1	59.3	71.6	80.0	68.2
まだ結婚するつもりはない										
総 数	54.4	51.3	50.4	49.1	47.4	49.1	46.1	43.9	44.9	40.5
39歳未満小計	56.2	53.8	53.3	52.3	51.2	49.7	46.6	44.7	46.5	42.5
18～19歳	85.7	80.6	69.6	84.2	85.5	76.4	76.8	76.7	79.8	80.8
20～24歳	72.1	67.4	70.8	71.0	69.8	55.7	53.9	56.0	60.6	57.1
25～29歳	37.5	42.7	45.1	46.3	44.4	19.7	26.9	29.3	28.9	27.2
30～34歳	12.8	21.5	25.9	28.9	28.6	14.0	18.4	16.1	19.4	13.9
35～39歳	9.8	13.9	20.6	22.3	21.9	12.6	13.6	16.0	12.8	12.9
40～49歳	16.8	15.5	15.0	14.0	20.0	19.7	27.2	17.4	10.7	13.6

注：「いずれ結婚するつもり」と回答した18～39歳の未婚者。

図 2-4 就業の状況別にみた、一年以内に結婚してもよいと考える未婚者割合の推移



注：「いずれ結婚するつもり」と回答した18～39歳の未婚者の中で「1年以内に結婚したい」「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した未婚者の割合。派遣・嘱託の区分は第12回以降で追加、契約社員は第13回以降で追加された。

就業の状況別に18～39歳の未婚者の中で「1年以内に結婚したい」「理想的な相手が見つれば結婚してもよい」と回答した未婚者の割合を示したのが図2-4である。男女間で顕著な差がみられ、男性は就業状態によって当面の結婚意欲に大きな差がみられる。自営・家族従業員等、正規職員が6割程度と高く、パート・アルバイト、無職・家事は3～4割、学生は第12回調査(2002年)を除き、1割程度となっている。一方女性は学生を除き、6割から7割の範囲で一定となっており、就業状況による差はさほどみられない。

## 2-4. 結婚の利点、独身生活の利点

生涯の結婚意思に大きな減少が観測されているわけではないにも関わらず、未婚化は着実に進んでいる。背景には結婚に対する価値や独身生活の魅力に対する変化が生じており、実際の結婚行動に影響を与えていると考えることができる。

表2-4 調査・年齢別にみた、未婚者の結婚の利点に関する考え

調査/年齢		男性				女性			
		総数(客対数)	利点がある	利点はない	不詳	総数(客対数)	利点がある	利点はない	不詳
第10回調査 (1992年)	総数	100.0 (4,851)	66.8	28.7	4.5	100.0 (3,990)	70.4	25.9	3.7
	39歳未満小計	100.0 (4,215)	67.2	28.5	4.3	100.0 (3,647)	71.3	25.2	3.6
	18～19歳	100.0 (845)	53.4	40.7	5.9	100.0 (878)	64.4	32.1	3.5
	20～24歳	100.0 (1,840)	63.6	33.0	3.4	100.0 (1,783)	71.3	25.5	3.2
	25～29歳	100.0 (1,036)	77.0	19.0	4.0	100.0 (739)	78.3	17.6	4.1
	30～34歳	100.0 (494)	79.4	16.0	4.7	100.0 (247)	76.5	20.6	2.8
	35～39歳	100.0 (318)	74.5	20.1	5.3	100.0 (138)	67.4	25.4	7.2
40～49歳	100.0 (318)	61.0	31.1	7.9	100.0 (205)	54.6	38.5	6.8	
第11回調査 (1997年)	総数	100.0 (4,671)	65.0	29.4	5.7	100.0 (3,954)	68.5	26.4	5.0
	39歳未満小計	100.0 (3,982)	65.4	29.5	5.1	100.0 (3,612)	69.5	25.7	4.8
	18～19歳	100.0 (621)	52.8	41.9	5.3	100.0 (606)	63.7	32.5	3.8
	20～24歳	100.0 (1,683)	62.4	32.7	4.8	100.0 (1,754)	70.1	25.4	4.5
	25～29歳	100.0 (1,149)	72.1	23.1	4.8	100.0 (908)	71.5	23.6	5.0
	30～34歳	100.0 (529)	68.6	24.6	6.8	100.0 (344)	75.3	19.2	5.5
	35～39歳	100.0 (287)	76.3	19.2	4.5	100.0 (149)	60.4	30.2	9.4
40～49歳	100.0 (402)	60.7	27.6	11.7	100.0 (193)	49.7	40.4	9.8	
第12回調査 (2002年)	総数	100.0 (4,665)	62.6	32.3	5.1	100.0 (3,938)	68.6	26.6	4.9
	39歳未満小計	100.0 (3,897)	62.4	32.6	5.0	100.0 (3,494)	69.7	25.9	4.5
	18～19歳	100.0 (706)	58.5	38.0	3.5	100.0 (591)	63.6	31.3	5.1
	20～24歳	100.0 (1,405)	59.4	35.7	4.9	100.0 (1,394)	66.8	29.1	4.2
	25～29歳	100.0 (1,124)	63.9	31.5	4.6	100.0 (1,012)	74.2	22.0	3.8
	30～34歳	100.0 (662)	69.6	25.2	5.1	100.0 (497)	74.0	21.3	4.6
	35～39歳	100.0 (323)	64.4	26.6	9.0	100.0 (211)	73.5	18.5	8.1
40～49歳	100.0 (445)	63.6	29.9	6.5	100.0 (233)	51.1	38.2	10.7	
第13回調査 (2005年)	総数	100.0 (4,002)	66.0	28.3	5.7	100.0 (3,583)	72.8	22.2	4.9
	39歳未満小計	100.0 (3,139)	66.2	28.3	5.5	100.0 (3,064)	73.7	21.4	4.9
	18～19歳	100.0 (422)	61.8	32.2	5.9	100.0 (541)	68.8	26.6	4.6
	20～24歳	100.0 (1,025)	62.8	32.2	5.0	100.0 (1,187)	75.5	20.3	4.2
	25～29歳	100.0 (1,025)	69.7	24.9	5.5	100.0 (834)	75.9	19.1	5.0
	30～34歳	100.0 (667)	66.3	26.7	7.0	100.0 (502)	72.7	22.9	4.4
	35～39歳	100.0 (412)	70.1	25.7	4.1	100.0 (255)	70.6	20.4	9.0
40～49歳	100.0 (451)	64.3	28.6	7.1	100.0 (264)	61.7	32.6	5.7	
第14回調査 (2010年)	総数	100.0 (5,040)	61.7	34.5	3.8	100.0 (4,276)	73.1	23.8	3.1
	39歳未満小計	100.0 (3,667)	61.9	34.6	3.4	100.0 (3,406)	74.7	22.4	2.9
	18～19歳	100.0 (435)	54.3	41.1	4.6	100.0 (530)	68.7	28.3	3.0
	20～24歳	100.0 (1,359)	60.0	37.5	2.5	100.0 (1,371)	75.1	22.5	2.3
	25～29歳	100.0 (1,076)	67.8	29.0	3.3	100.0 (895)	79.7	17.4	2.9
	30～34歳	100.0 (797)	63.7	32.2	4.0	100.0 (610)	74.1	22.1	3.8
	35～39歳	100.0 (613)	59.2	36.5	4.2	100.0 (427)	71.2	25.3	3.5
40～49歳	100.0 (760)	60.5	33.7	5.8	100.0 (443)	59.4	35.9	4.7	

注：対象は未婚者。

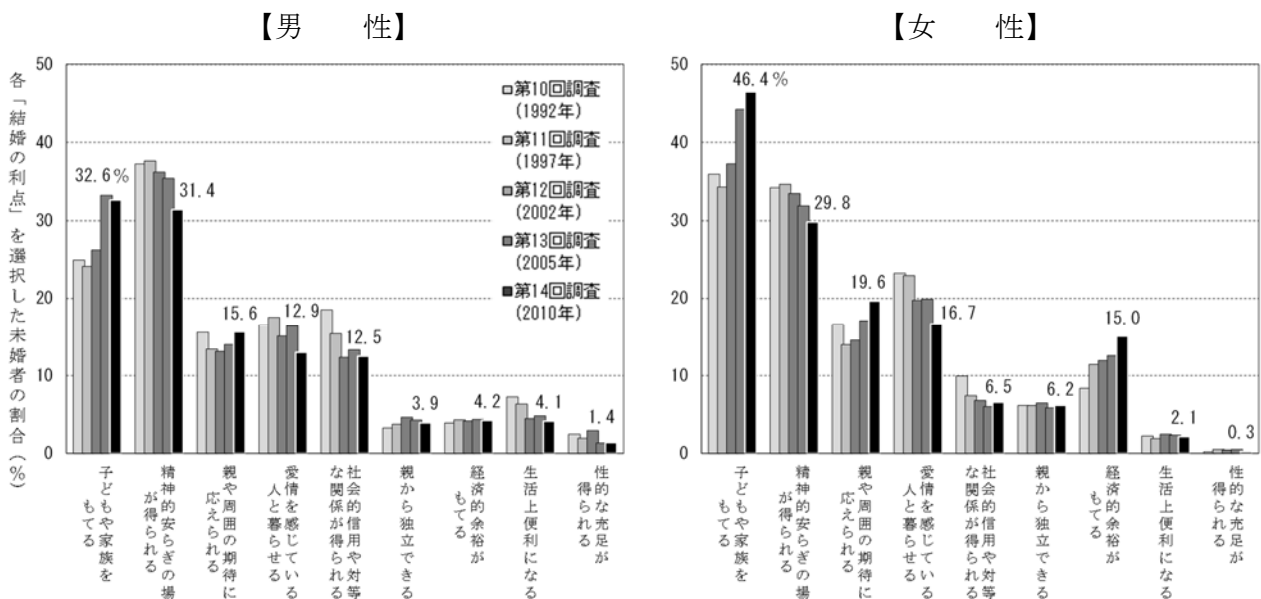
設問：「今のあなたにとって、結婚することは何か利点があると思いますか。」(1. 利点があると思う、2. 利点はないと思う)。

本調査では、現時点で結婚することには「利点があると思うか」どうか、または独身生活には「利点があると思うか」どうかについて尋ねている。さらにそれぞれの利点の内容についても調査している。

表 2-4 には未婚者の結婚の利点の有無について調査回別、年齢別に示している。18～39 歳の未婚者の動向についてみると、男性では第 10 回調査（1992 年）に 67.2%であった結婚に利点があると回答した割合は、調査回を経るごとに減少し第 14 回調査（2010 年）では 61.9%となっている。年齢別にみると 30 代での減少が目立っており、35～39 歳では第 13 回調査（2005 年）の 70.1%から第 14 回調査（2010 年）の 59.2%へと 10 ポイント以上減少した。一方女性では、第 10 回調査（1992 年）に 71.3%であった結婚に利点があると回答した割合は、第 11 回調査（1997 年）で一旦減少するものの、その後反転し、第 14 回調査（2010 年）では 74.7%へと増加した。年齢別にみると、20 代で結婚を利点と考える割合が高く、全ての年齢層で増加傾向を示している。

結婚することの具体的な利点について、図 2-5 には各項目について二つまで選択する方式で得られた選択率を示している。選択率の上位 4 位までは男女とも同じであり、最も選択率が高いのは「子どもや家庭をもてる」ことであり、男性で 32.6%（2010 年）、女性 46.4%（同）と 2000 年代後半から急激に増加している。ただし男性では第 13 回調査（2005 年）から若干減少した。二番目に高い選択率を示した項目は「精神的な安らぎの場が得られる」であり、3 割程度の選択率であった。三位は「親や周囲の期待に応えられる」、四位は「愛情を感じている人と暮らせる」となっている。一位の「子どもや家庭をもてる」、三位の「親や周囲の期待に応えられる」は近年増加傾向にあり、二位の「精神的な安らぎの場が得られる」、四位の「愛情を感じている人と暮らせる」は減少傾向にある。女性で「経済的余裕がもてる」が第 14 回調査で顕著に増加しており、2010 年時点の経済状況を反映しているものと考えられる。

図 2-5 調査別にみた、結婚することの利点



注：18～39 歳未婚者のうち何%が各項目を主要な結婚の利点（二つまで選択）として考えているかを示す。グラフ上の数値は第 14 回調査の結果。

独身生活の利点の有無について調査・年齢別にみると（表 2-5）、男性は 8 割前後、女性は 9 割前後が独身生活には利点があると回答している。年齢別にみても、おおむね同様の傾向であり、男女ともに 20 代が高めの水準となっている。

表 2-5 調査・年齢別にみた、未婚者の独身生活の利点に関する考え

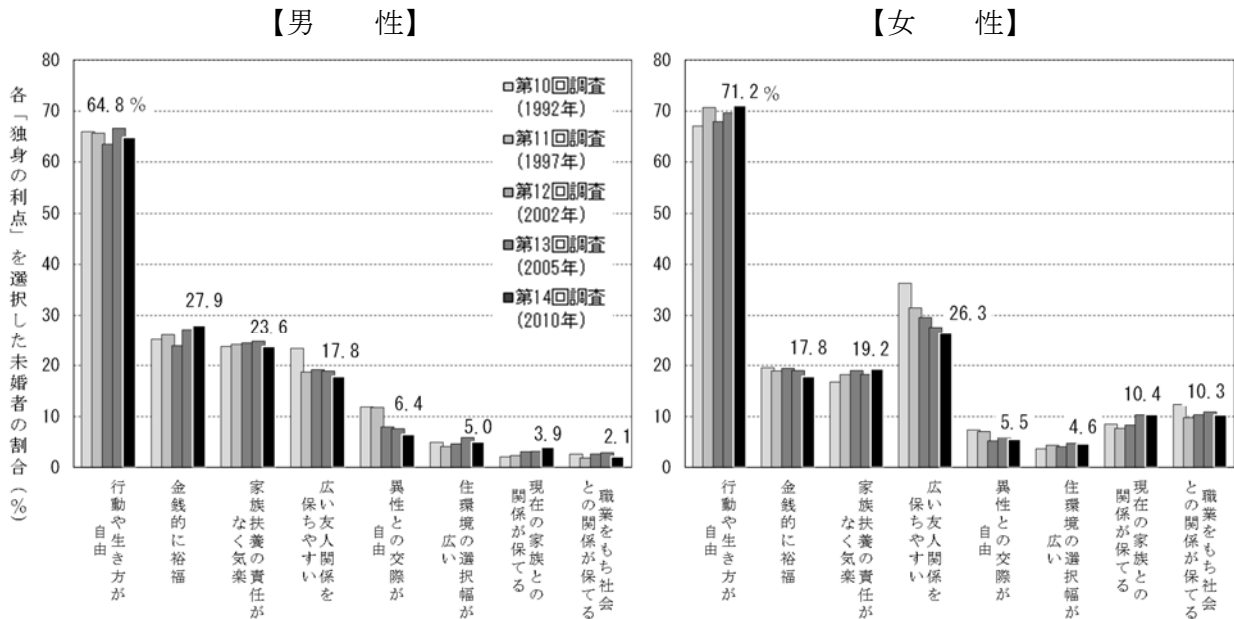
調査／年齢		男 性				女 性			
		総 数 (客体数)	利点がある	利点はない	不 詳	総 数 (客体数)	利点がある	利点はない	不 詳
第10回調査 (1992年)	総 数	100.0 (4,851)	82.2	12.2	5.6	100.0 (3,990)	88.3	7.7	4.0
	39歳未満小計	100.0 (4,533)	83.2	11.4	5.4	100.0 (3,785)	88.8	7.4	3.8
	18～19歳	100.0 (845)	78.3	14.0	7.7	100.0 (878)	86.0	10.1	3.9
	20～24歳	100.0 (1,840)	85.5	10.4	4.1	100.0 (1,783)	90.5	6.4	3.1
	25～29歳	100.0 (1,036)	86.2	8.7	5.1	100.0 (739)	89.9	5.8	4.3
	30～34歳	100.0 (494)	80.2	14.6	5.3	100.0 (247)	86.6	9.3	4.0
	35～39歳	100.0 (318)	77.7	14.8	7.5	100.0 (138)	84.1	8.0	8.0
第11回調査 (1997年)	総 数	100.0 (4,671)	80.8	13.1	6.1	100.0 (3,954)	88.1	7.4	4.5
	39歳未満小計	100.0 (4,269)	82.2	12.1	5.7	100.0 (3,761)	88.5	7.2	4.3
	18～19歳	100.0 (621)	78.4	14.8	6.8	100.0 (606)	86.5	9.2	4.3
	20～24歳	100.0 (1,683)	83.4	11.6	5.1	100.0 (1,754)	88.7	7.2	4.2
	25～29歳	100.0 (1,149)	85.9	8.7	5.4	100.0 (908)	90.1	5.5	4.4
	30～34歳	100.0 (529)	78.8	14.4	6.8	100.0 (344)	87.5	7.8	4.7
	35～39歳	100.0 (287)	74.6	19.2	6.3	100.0 (149)	87.2	7.4	5.4
第12回調査 (2002年)	総 数	100.0 (4,665)	78.3	15.7	6.0	100.0 (3,938)	85.9	9.0	5.2
	39歳未満小計	100.0 (4,220)	79.4	14.8	5.8	100.0 (3,705)	86.2	8.8	5.0
	18～19歳	100.0 (706)	68.1	26.3	5.5	100.0 (591)	82.2	12.2	5.6
	20～24歳	100.0 (1,405)	82.6	12.0	5.3	100.0 (1,394)	87.3	8.0	4.7
	25～29歳	100.0 (1,124)	83.9	10.4	5.7	100.0 (1,012)	88.2	7.4	4.3
	30～34歳	100.0 (662)	79.5	14.7	5.9	100.0 (497)	86.3	8.9	4.8
	35～39歳	100.0 (323)	74.0	17.6	8.4	100.0 (211)	80.6	11.4	8.1
第13回調査 (2005年)	総 数	100.0 (4,002)	81.5	12.1	6.3	100.0 (3,583)	86.4	7.9	5.7
	39歳未満小計	100.0 (4,533)	83.0	11.0	5.9	100.0 (3,785)	87.2	7.3	5.5
	18～19歳	100.0 (422)	80.3	12.6	7.1	100.0 (541)	85.0	9.2	5.7
	20～24歳	100.0 (1,025)	86.5	8.9	4.6	100.0 (1,187)	88.5	6.7	4.8
	25～29歳	100.0 (1,025)	84.6	10.0	5.5	100.0 (834)	88.5	6.1	5.4
	30～34歳	100.0 (667)	80.4	11.7	7.9	100.0 (502)	84.7	10.6	4.8
	35～39歳	100.0 (412)	74.8	18.0	7.3	100.0 (255)	82.0	7.1	11.0
第14回調査 (2010年)	総 数	100.0 (5,040)	78.9	17.2	3.9	100.0 (4,276)	86.2	10.4	3.4
	39歳未満小計	100.0 (4,280)	80.2	16.2	3.6	100.0 (3,833)	86.9	9.8	3.3
	18～19歳	100.0 (435)	76.8	18.4	4.8	100.0 (530)	83.4	12.8	3.8
	20～24歳	100.0 (1,359)	83.5	13.9	2.6	100.0 (1,371)	88.7	8.7	2.6
	25～29歳	100.0 (1,076)	82.3	14.4	3.3	100.0 (895)	90.1	7.0	2.9
	30～34歳	100.0 (797)	77.2	18.4	4.4	100.0 (610)	85.1	10.5	4.4
	35～39歳	100.0 (613)	75.2	19.9	4.9	100.0 (427)	81.3	14.5	4.2
40～49歳	100.0 (760)	71.7	22.8	5.5	100.0 (443)	79.9	15.8	4.3	

注：対象は未婚者。

設問：「それでは逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。」（1. 利点があると思う、2. 利点はないと思う）。

独身生活の具体的な利点について 18～39 歳の未婚者の回答状況をみると（図 2-6）、男女ともに「行動や生き方が自由」が最も選択率が高く、男性で 65.1%（2010 年）、女性で 71.4%（同）であった。二位は男性では「金銭的に裕福」（28.1%、2010 年）、女性では「広い友人関係を保ちやすい」（27.7%、2010 年）となっている。多くの項目は調査間でおおむね同様の傾向を示しているが、女性の「広い友人関係を保ちやすい」は減少傾向を示している。

図 2-6 調査別にみた、独身生活の利点



注：18～39歳未婚者のうち何%が各項目を主要な独身生活の利点（二つまで選択）として考えているかを示す。グラフ上の数値は第14回調査の結果。

## 2-5. 独身にとどまっている理由

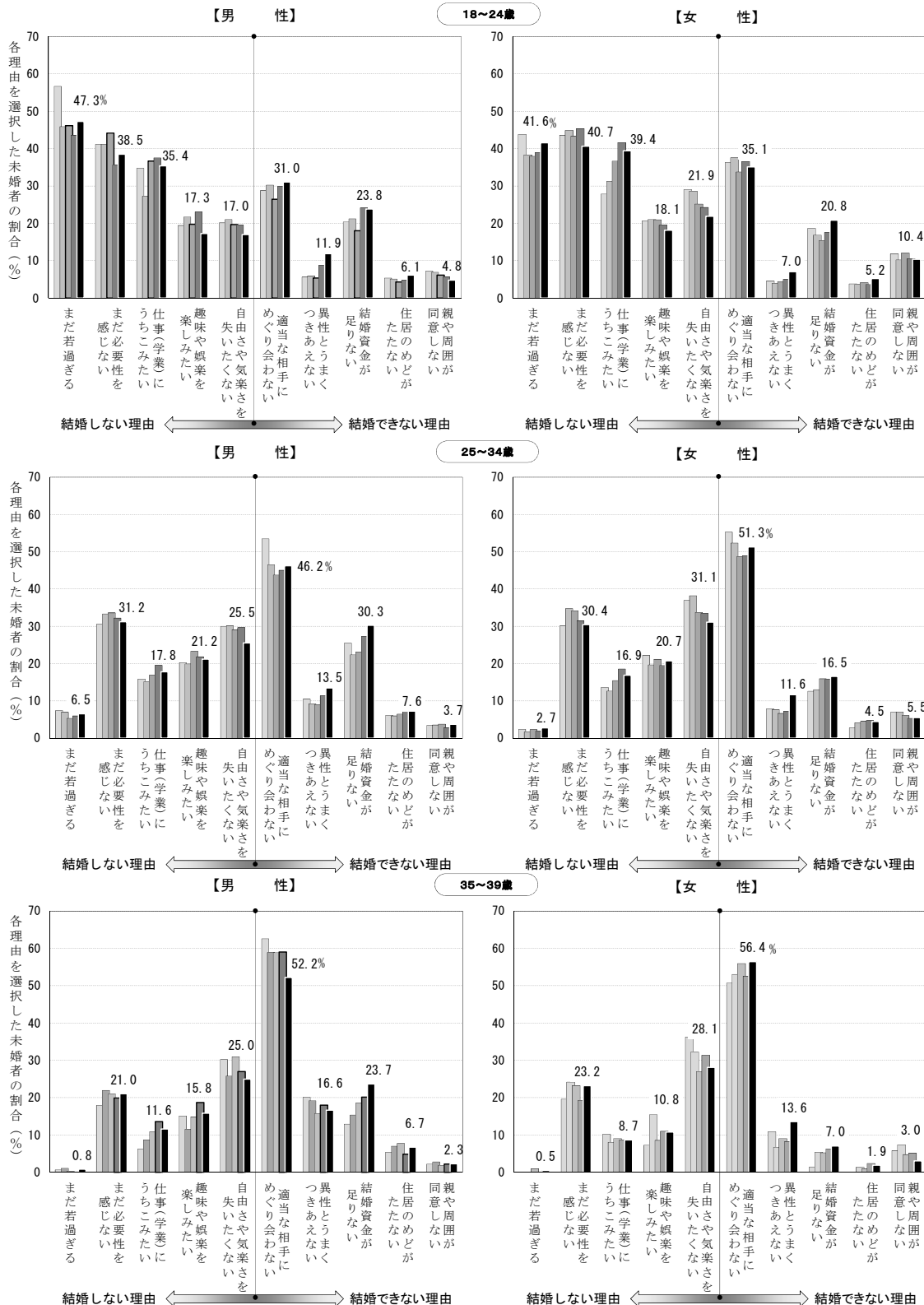
これまで、結婚の意思や結婚の利点について未婚者の意向を探ってきたが、ではなぜ結婚しないのか、という直接的な問いとして、現在「独身にとどまっている理由」を「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者（18～39歳）に尋ねた。各理由について三つまで選択する複数選択での選択率を調査回、18～24歳、25～34歳、35～39歳の年齢層別にみたものが図 2-7 である。独身にとどまっている理由となる各項目を“結婚しない理由”と“結婚できない理由”に分け、それぞれ配置している。

18～24歳の年齢層では「まだ若すぎる」、「まだ必要性を感じない」、「仕事（学業）に打ち込みたい」といった“結婚しない理由”の選択率が高く、“結婚できない理由”である「適当な相手にめぐり合わない」は男女ともに3割程度の選択率となっている。

25～34歳の年齢層では「適当な相手にめぐり合わない」が最も高く、男女ともに半数近い選択率となっている。男女ともに選択率が高いのは「自由や気楽さを失いたくない」、「まだ必要性を感じない」といった“結婚しない理由”が3割前後の選択率、男性では「結婚資金が足りない」という“結婚できない理由”が増加傾向にある。

35～39歳の年齢層になると「適当な相手にめぐり合わない」の選択率が半数を超え、その他の選択率は25～34歳の年齢層と同様の選択傾向を示しながらも、選択率が低下し、全体的に「適当な相手にめぐり合わない」という“結婚できない理由”に集約する傾向を示している。

図 2-7 調査・年齢別にみた、独身にとどまっている理由



注：対象は18~39歳の未婚者。未婚者のうち何%の人が各項目を独身にとどまっている理由（三つまで選択）として挙げているかを示す。グラフ上の数値は第14回調査の結果。

18~34歳は国立社会保障・人口問題研究所（2012a）p.53 図5-1を再掲。

設問：「あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最もあてはまると思われる理由を最高三つまで選んで、右の回答欄に番号を記入して下さい。」

## 2-6. 結婚へのハードル

現実的に結婚を考えたときに障害となることの有無とその内容について、「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者に尋ねている。

調査・年齢別にみると（表2-6）、全体の傾向は男女ともに若年層ほど障害があると回答する割合が高い傾向を示す。ただし、近年になるに従い障害があると回答する割合はすべての年齢層で増加傾向にある。

結婚の障害となる具体的な内容について各項目から二つまで選択した選択率では（図2-8）、男女ともに「結婚資金」が最も高く、その他の項目では、「結婚のための住居」、「職業や仕事上の問題」、「学校や学業上の問題」といった項目で選択率が高い。女性では「親の承諾」が以前は2割を上回っていたが、近年は減少傾向にある。

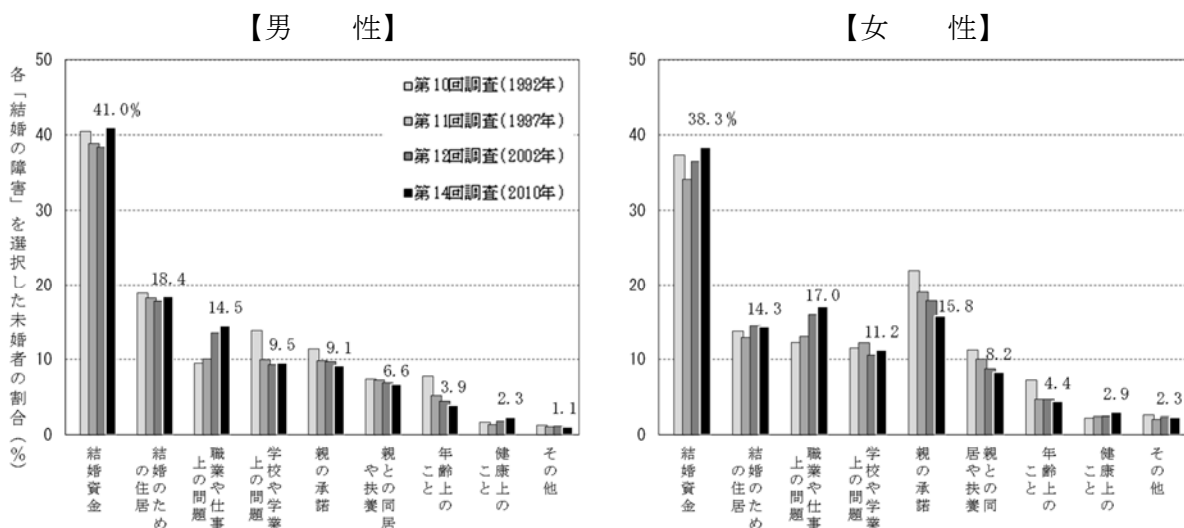
表2-6 調査・年齢別にみた、結婚に障害があると回答した者の割合

年 齢	【男 性】				【女 性】			
	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第14回 (2010年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第14回 (2010年)
18～19歳	75.0%	74.6	64.7	79.8	82.6	83.4	85.6	82.1
20～24歳	75.0	69.9	73.1	72.1	74.8	72.8	77.1	78.1
25～29歳	59.4	58.2	60.0	65.1	56.8	55.4	61.0	64.5
30～34歳	46.7	51.9	52.6	58.7	48.3	46.6	49.4	56.4
35～39歳	40.6	43.0	48.5	55.6	43.7	34.0	42.6	48.9

注：「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者。

国立社会保障・人口問題研究所（2012a）p.49 表4-2を加工して再掲。

図2-8 調査別にみた、結婚の障害の内容



注：対象は18～39歳未婚者のうち何%の人が各項目を主要な障害（二つまで選択）と考えているかを示す。グラフ上の数値は第14回調査の結果。

## 2-7. 異性との交際状況

結婚に対する意識には異性との交際状況が大きく影響する。ここでは異性との交際状況の変遷をみていきたい。18～39歳の未婚者に対して、異性との交際状況について「交際している異性はいない」、「友人として交際している異性がいる」、「恋人として交際している異性がいる」、「婚約者がある」というカテゴリで尋ねている。男性では交際している異性はいないと回答する割合は第10回調査（1992年）から第13回調査（2005年）までは5割程度であったが、第14回調査では62.2%と6割を超えた。交際している異性の構成としては、「友人として交際している異性がいる」の割合が低下していることが影響していることが考えられる。「恋人として交際している異性がいる」と回答する割合は第10回（1992年）から第14回調査（2010年）まで21%程度で安定している。一方、女性では「交際している異性がいる」と回答する割合は51.6%となっており、「恋人として交際している異性がいる」割合は3割程度で安定している。

第14回調査（2010年）の異性との交際状況を年齢別にみると（表2-8）、男性は20代から30代前半では「恋人と交際している異性がいる」割合が25%程度と高く、30代後半になると「友人として交際している異性がいる」割合は12.4%とやや高めであるが、「恋人として交際している異性がいる」割合は10.9%と低下する。一方、女性は10代から20代において「恋人として交際している異性がいる」割合が3割前後と高く、30代前半で2割程度に下がり、30代後半では15.5%となる。30代後半では「交際している異性はいない」割合が68.1%と非常に高い水準にあり、第13回調査（2005年）の55.3%から大幅に増加している。また、「友人として交際している異性がいる」割合が7.7%（第13回調査では12.5%）と低い水準である点も特徴的である。

表2-7 調査別にみた、未婚者の異性との交際状況

性／調査	総数（客体数）		交際相手の有無					不詳
			交際している異性はいない	交際している異性がある	友人として交際している異性がある	恋人として交際している異性がある	婚約者がある	
男性								
第10回調査（1992年）	100.0	(4,533)	48.1	44.3	19.3	21.9	3.1	7.6
第11回調査（1997年）	100.0	(4,269)	50.8	40.6	15.3	22.4	2.9	8.6
第12回調査（2002年）	100.0	(4,220)	53.6	35.2	11.1	21.5	2.6	11.2
第13回調査（2005年）	100.0	(3,551)	53.8	39.6	13.9	22.9	2.8	6.6
第14回調査（2010年）	100.0	(4,280)	62.2	32.6	9.9	21.1	1.7	5.1
女性								
第10回調査（1992年）	100.0	(3,785)	39.5	54.2	19.5	30.9	3.8	6.3
第11回調査（1997年）	100.0	(3,761)	42.5	50.7	15.8	31.1	3.8	6.8
第12回調査（2002年）	100.0	(3,705)	40.9	48.5	12.3	32.4	3.8	10.6
第13回調査（2005年）	100.0	(3,319)	45.6	48.3	12.9	30.8	4.6	6.1
第14回調査（2010年）	100.0	(3,833)	51.6	43.6	11.5	29.2	2.9	4.9

注：対象は18～39歳未婚者。

設問：「あなたには現在、交際している異性がありますか。」



表 2-8 年齢別にみた、未婚者の異性との交際状況（第 14 回調査結果）

性／年齢	総 数 (客体数)		交際相手の有無					不詳
			交際している 異性はいない	交際している 異性がある	友人として交際 している異性が いる	恋人として交際 している異性が いる	婚約者が いる	
総 数	100.0%	(9,316)	58.9	35.6	10.7	22.9	2.1	5.5
男 性								
総 数	100.0	(5,040)	63.8	30.5	10.0	18.9	1.6	5.7
39歳未満小計	100.0	(4,280)	62.2	32.6	9.9	21.1	1.7	5.1
18～19歳	100.0	( 435)	69.9	24.4	8.5	15.9	0.0	5.7
20～24歳	100.0	(1,359)	61.9	33.9	9.3	23.8	0.9	4.2
25～29歳	100.0	(1,076)	55.9	40.3	10.4	26.7	3.3	3.7
30～34歳	100.0	( 797)	63.4	30.7	8.9	19.6	2.3	5.9
35～39歳	100.0	( 613)	67.2	24.5	12.4	10.9	1.1	8.3
40～49歳	100.0	( 760)	72.6	18.7	11.1	6.7	0.9	8.7
女 性								
総 数	100.0	(4,276)	53.1	41.7	11.4	27.5	2.8	5.2
35歳未満小計	100.0	(3,833)	51.6	43.6	11.5	29.2	2.9	4.9
18～19歳	100.0	( 530)	59.8	35.3	9.1	26.0	0.2	4.9
20～24歳	100.0	(1,371)	47.4	49.2	10.6	36.8	1.8	3.4
25～29歳	100.0	( 895)	43.8	51.4	14.1	30.9	6.4	4.8
30～34歳	100.0	( 610)	53.4	39.7	14.1	21.6	3.9	6.9
35～39歳	100.0	( 427)	68.1	24.8	7.7	15.5	1.6	7.0
40～49歳	100.0	( 443)	66.1	25.5	11.1	13.1	1.4	8.4

注：対象は未婚者。設問は表 2-6 に同じ。

## 2-8. 希望するライフコース

結婚、出産、就業に関して未婚女性が理想とするライフコース、実際になりそうなライフコース（予定）、未婚男性が女性にどのようなライフコースを望んでいるかを尋ねている。

出生動向基本調査では女性のライフコースを結婚、出産・子育てと就業との関係から以下の 5 分類を用いている（国立社会保障・人口問題研究所 2012a）。

### ○女性のライフコースの説明：

- 専業主婦コース：結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない。
- 再就職コース：結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ。
- 両立コース：結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。
- DINKS コース：結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける。
- 非婚就業コース：結婚せず、仕事を一生続ける。

調査回別に 18～39 歳の未婚者の回答を示したのが表 2-9 である。女性の理想とするライフコースは第 10 回（1992 年）に 31.9%であった専業主婦コースは第 14 回調査（2010 年）には 19.5%と減少し、両立コースは 19.3%から 30.4%へと増加している。再就職コースは依然として 3 割強と安定した傾向を示している。実際になりそうな予定のライフコースでは、専業主婦コースは顕著に減少し第 14 回調査（2010 年）では 8.7%となった。その逆に両立コースや非婚就業コースが増加傾向にあり、ともに 2 割程度となっている。再就職コースはやや減少傾向にあり 33.6%とな

っており最も高い。一方、男性が女性に望むライフコースについては、第 14 回調査（2010 年）において再就職コースが 38.1%と最も高く、次点は両立コース 32.7%となっている。再就職コースは減少傾向にあり、両立コースは第 13 回調査（2005 年）に急激に増加し、その傾向は続いている。専業主婦コースは第 10 回調査（1992 年）の 29.8%から第 14 回調査（2010 年）の 10.8%へと大幅に減少している。

表 2-9 調査別にみた、女性の理想・予定のライフコースおよび男性が女性に望むライフコース

調査（調査年次）		総数	専業主婦	再就職	両立	DINKS	非婚就業	その他・不詳
女性の理想	第10回調査(1992年)	100.0%	31.9%	29.5	19.3	4.3	3.5	11.5
	第11回調査(1997年)	100.0	20.6	33.8	27.0	4.7	4.6	9.3
	第12回調査(2002年)	100.0	18.5	36.2	27.2	4.0	5.4	8.7
	第13回調査(2005年)	100.0	18.6	32.9	29.9	4.2	5.6	8.7
	第14回調査(2010年)	100.0	19.5	34.1	30.4	3.9	5.1	7.0
女性の予定	第10回調査(1992年)	100.0	18.7	44.5	14.5	3.0	10.8	8.6
	第11回調査(1997年)	100.0	17.3	41.8	15.1	3.3	10.7	11.8
	第12回調査(2002年)	100.0	13.3	40.3	17.0	4.4	13.8	11.2
	第13回調査(2005年)	100.0	11.3	35.2	20.2	3.6	17.4	12.3
	第14回調査(2010年)	100.0	8.7	33.6	23.5	3.7	20.3	10.1
男性の期待	第10回調査(1992年)	100.0	29.8	44.1	10.9	0.9	0.7	13.5
	第11回調査(1997年)	100.0	20.7	43.4	17.0	1.4	1.0	16.5
	第12回調査(2002年)	100.0	17.8	46.5	18.9	1.5	1.6	13.6
	第13回調査(2005年)	100.0	12.5	38.4	28.1	3.1	3.0	14.9
	第14回調査(2010年)	100.0	10.8	38.1	32.7	2.9	3.9	11.6

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した 18～39 歳の未婚者。

設問：女性の理想のライフコース「現実の人生と切りはなして、あなたの理想とする人生はどのようなタイプですか」（第 10 回調査）、「あなたの理想とする人生はどのようなタイプですか」（第 11～14 回調査）、女性の予定のライフコース「これまでを振り返った上で、実際になりそうな人生はどのようなタイプですか」（第 10 回調査）、「理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのようなタイプですか」（第 11～14 回調査）、男性がパートナー（女性）に望むライフコース「女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」（第 10～12 回調査）、「パートナー（あるいは妻）となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」（第 13～14 回調査）

## 2-9. 結婚相手に求める条件

本調査では結婚相手に求める条件について「学歴」、「職業」、「収入などの経済力」、「人柄」、「容姿」、「共通の趣味の有無」（以下、「共通の趣味」）、「自分の仕事に対する理解と協力」（以下、「仕事への理解」）、「家事・育児に対する能力や姿勢」（以下、「家事・育児の能力」）の8項目についてそれぞれ「重視する」、「考慮する」、「あまり関係ない」の三択で尋ねている。結婚相手に求める条件の把握は、未婚男女が希望する相手そのものの条件以上に、希望する家庭生活や結婚観にも通じ、より直接的、具体的な結婚へのニーズを測定することができる指標となることが考えられる。

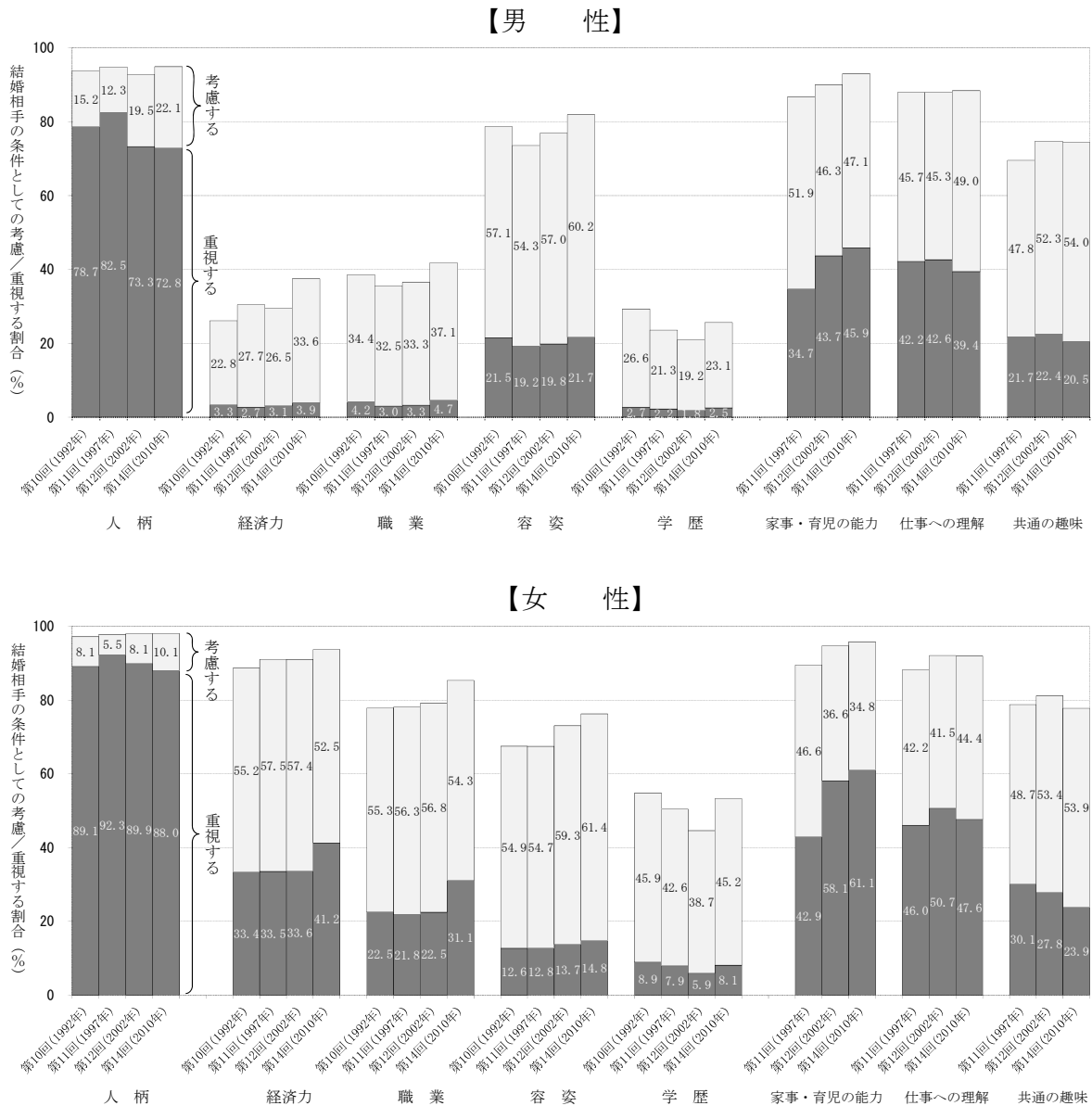
18～39歳の未婚者を対象に、結婚の条件についての調査が始まった第10回調査（1992年）から今回調査（2010年）までの推移をみてみよう（第13回調査では調査が行われていない。また、「共通の趣味」、「仕事への理解」、「家事・育児の能力」は第11回調査から開始された）。

「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者が結婚相手に求める条件は（図2-9）、男女とも「人柄」を重視・考慮する人が最も多く（男女ともに9割程度で重視する割合は男性で7割、女性で8割）、「家事・育児の能力」「自分の仕事への理解」も8～9割の未婚者が重視・考慮している。とくに「家事・育児の能力」を「重視する」割合は第11回調査（1997年）の34.7%から第14回調査（2010年）の45.9%へと顕著に増加している。「共通の趣味の有無」は男女ともに考慮・重視する割合が8割程度と高いが、前回の第12回調査（2002年）に比べて重視する割合は男女ともに2割程度に減少した。

女性では「経済力」「職業」を考慮・重視する割合が高く、とりわけ「経済力」、「職業」を「重視する」割合は第14回調査（2010年）において10%程度増加した。また、男性も「経済力」、「職業」を「考慮する」割合が増えており、男性が女性に求めるライフコースとして「両立コース」が増えていることや、長期的に続く経済不況の影響や雇用の不安定化等が反映しているものと考えられる。

全体的に女性の方が結婚相手に求める条件に対する重視・考慮する傾向が高いが、容姿のみ男性の方が高い結果となっている。

図 2-9 調査別にみた、結婚相手の条件として考慮・重視する割合の推移

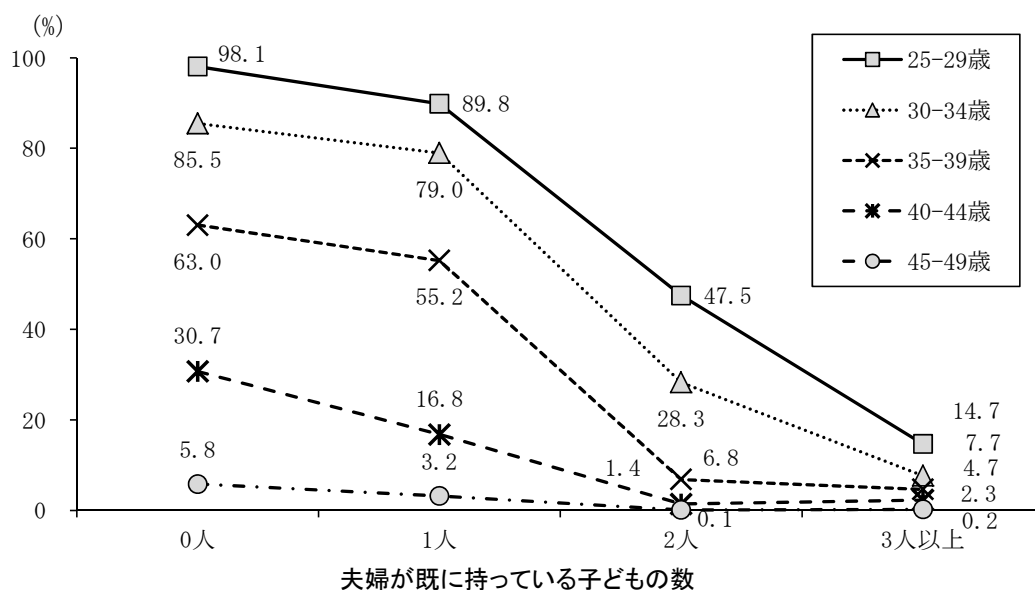


注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～39歳未婚者。第13回調査では調査が行われていない。また、「共通の趣味」、「仕事への理解」、「家事・育児の能力」は第11回調査から開始された。  
 設問：「あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑧の項目について、どの程度重視しますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。」(1.重視する、2.考慮する、3.あまり関係ない)

### 3. 夫婦の子ども数

ここからは、夫婦の出生意欲についてみていきたい。図 3-1 は 2010 年に 50 歳未満の初婚どうしの夫婦に対して、既往子ども数別に、今後の出生意欲を尋ねたものを妻の年齢別に集計した結果である。妻の年齢が高くなるにつれて今後の出生意欲は低下し、既往子ども数が 2 人を上回ると、全年齢での出生意欲は急激に減少する傾向が見て取れる。また、年齢が 30 代後半になると今後の出生意欲は半分程度に減少する。

図 3-1 夫婦の既往子ども数・妻の年齢別、今後の出生意欲：第 14 回調査（2010 年）

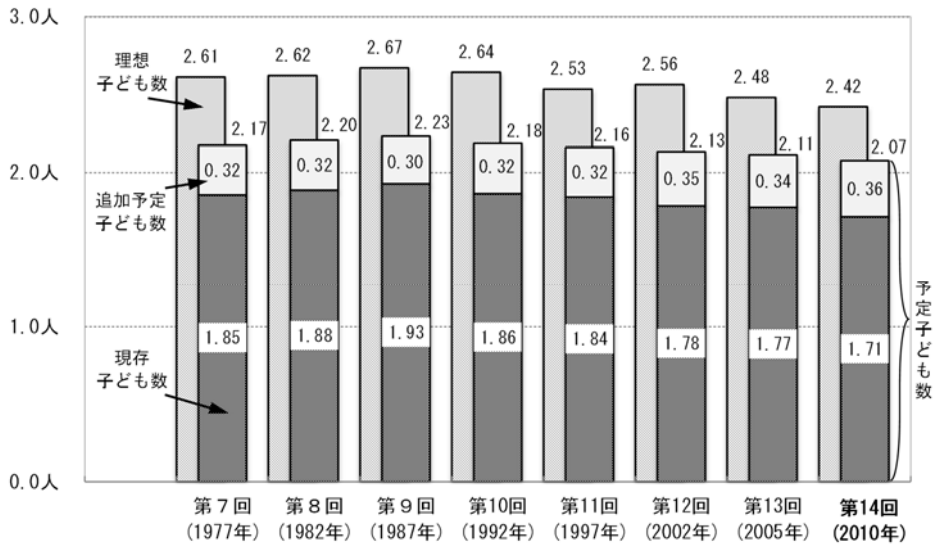


注：対象は全国の 50 歳未満、初婚どうしの夫妻の妻 6,705 人（不詳を除く）。25 歳未満はケース数が少ないため省略した。

設問：「あなた方ご夫婦は、これから何人子どもを生むつもりですか。」と尋ねた問に対して「(あと) 1 人生むつもり」、「(あと) 2 人生むつもり」、「(あと) 3 人生むつもり」及び「(あと) 4 人以上生むつもり」のいずれかを回答した人数が、妻の年齢層及び夫婦が既に持っている子どもの数ごとの当該総数に占める割合。選択肢はほかに、「(もう) 生むつもりはない」。

図 3-2 には、調査別にみた平均理想子ども数、平均予定子ども数の推移を示している。平均予定子ども数は追加予定子ども数と現存子ども数を合計した数値としている。平均理想子ども数の推移は、第 7 回調査（1977 年）の 2.61 人から第 14 回調査（2010 年）の 2.42 人へと減少している。国立社会保障・人口問題研究所（2012b）によれば、結婚持続期間 0～4 年の夫婦では第 13 回調査（2005 年）と同水準であったものの、その他の結婚持続期間において減少がみられたことによるものである。平均予定子ども数も第 9 回調査（1987 年）の 2.23 人をピークに減少傾向にあり、第 14 回調査（2010 年）では 2.07 人となっている。現存子ども数が減少している中で、追加予定子ども数が増加しており、結婚持続期間別にみると 10 年未満の追加予定子ども数は増加しているが、10 年以上の夫婦の追加予定子ども数が減少していることによる（国立社会保障・人口問題研究所 2012b）。

図 3-2 調査別にみた、平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移



注：対象は妻の年齢 50 歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は 8 人以上を 8 人とし、現存子ども数と追加予定子ども数の和として算出。総数には結婚持続期間不詳を含む。国立社会保障・人口問題研究所 (2012b) p. 29 図 3-1 を再掲。

設問 理想子ども数：「あなた方ご夫婦にとって 理想的な子どもの数は何人ですか.」。 (追加) 予定子ども数：「あなた方ご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします. (1) お子さんの数と、(2) 希望の時期について、あてはまる番号に○をつけてください。」

予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦について、理想の子ども数を持たない理由について尋ねた結果が表 3-1 である (2010 年)。

最も高い選択率であったのは経済的理由である「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が全体で 60.4% であり、30 歳未満の世代で多く 83.3% が選択肢、30 代でも 7 割前後が選択している。30 歳未満では「自分の仕事(勤めや家業)に差し控えるから」(21.1%)、「家が狭いから」(18.9%) といった経済的理由が上位となっている。30 代では育児負担を選択する割合が 2 割、30 代後半では年齢・身体的理由として「高齢で生むのはいやだから」が 27.2% と高くなる。

平均予定子ども数と現存子ども数との差について、今後 1 人以上の追加の子どもを持つつもりの中婚どうしの夫婦に、その実現可能性と予定子ども数を実現できないとしたときに考えられる理由について尋ねた結果が表 3-2 である。

「持つつもりの子どもの数を実現できない可能性がある」と回答する割合は全体で 78.4% であり年齢が高くなるにつれて増加する。実現できない理由について、30 歳未満では「収入が不安定なこと」が 43.6% と経済的理由を挙げ、「自分の夫の仕事の事情」(19.7%)、「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」(18.9%) と続く。30~34 歳では、「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」が 39.7% で最も高く、「収入が不安定なこと」(27.6%)、「自分の夫の仕事の事情」(22.1%) となる。35~39 歳では「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」が 6 割を超え最も高い選択率となっている。

表 3-1 妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由：第 14 回調査（2010 年）

(複数回答)

妻の年齢 (集計客体数)	理想の子ども数を持たない理由											
	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫に関する理由			その他	
	か子育てや教育にお金がかかりすぎるから	業に自分の仕事(勤めや家)に差し支えるから	家が狭いから	だ高年齢で生むのはいや	い欲からいけれどもできない	健康上の理由から	この肉体的負担に耐えられない以上、育児の心理	夫が得られず、育児への協力	退職から成人までの子育て	夫が望まないから	社会環境でのびのび育つ	切にしたい夫婦から生活を大
30歳未満 (90)	83.3%	21.1	18.9	3.3	3.3	5.6	10.0	12.2	5.6	4.4	7.8	11.1
30～34歳 (233)	76.0	17.2	18.9	13.3	12.9	15.5	21.0	13.3	4.3	9.9	9.9	7.3
35～39歳 (519)	69.0	19.5	16.0	27.2	16.4	15.0	21.0	11.6	6.9	8.9	8.1	7.5
40～49歳 (993)	50.3	14.9	9.9	47.3	23.8	22.5	15.4	9.9	10.2	6.2	6.1	3.7
総数 (1,835)	60.4	16.8	13.2	35.1	19.3	18.6	17.4	10.9	8.3	7.4	7.2	5.6
第13回調査(総数)	65.9%	17.5	15.0	38.0	16.3	16.9	21.6	13.8	8.5	8.3	13.6	8.1

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は 32.7%。国立社会保障・人口問題研究所（2012b）p. 32 表 3-3 を再掲。

設問：「持つつもりの子どもの数が、理想とする子どもの数より少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」

表 3-2 妻の年齢別にみた、予定子ども数を実現できない可能性：第 14 回調査（2010 年）

妻の年齢 (集計客体数)	予定子ども数を実現できない可能性は低い	予定子ども数を実現できない可能性がある	予定の子ども数を実現できない場合の理由（複数回答）						不詳
			収入が不安定なこと	自分の夫の仕事の事情	家事・育児の協力者がいないこと	預保先がなない子どもの	手がかるか子どもに	子どもが健康上できない理由	
30歳未満 (507)	18.5%	74.8	43.6	19.7	10.5	14.6	12.4	18.9	6.7
30～34歳 (612)	13.9	77.6	27.6	22.1	12.9	14.9	10.0	39.7	8.5
35～39歳 (417)	9.8	82.0	21.6	18.5	10.3	9.8	7.7	62.4	8.2
40歳以上 (119)	6.7	87.4	20.2	16.0	10.1	4.2	4.2	75.6	5.9
総数 (1,655)	13.8	78.4	30.5	20.0	11.3	12.7	9.7	41.6	7.8

注：対象は追加予定子ども数が 1 人以上の初婚どうしの夫婦。

国立社会保障・人口問題研究所（2012b）p. 33 表 3-5 を加工して再掲。

設問：「今後持つおつもりのお子さん数が、もし結果的に持てないことがあるとしたら、その原因は何である可能性が高いですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。」

## 4. おわりに

本稿は「出生動向基本調査」にて調査を行っている初婚夫婦ならびに未婚者の出産・結婚意向について、30代後半を含めた近年の動向を主要な統計結果の再集計から概観した。

未婚者の生涯の結婚意思は調査ごとに減少する傾向はありながらも依然として高い水準にある。未婚化によって結婚意思をもつ30代の未婚者が大幅に増加したことによる。30代の未婚率がそれほど高くない時期においては、30代での未婚者、特に女性の生涯の結婚意思は低い水準となっていたが、現在では結婚意思のある30代未婚者の増加が観察された。しかし、30代未婚者の結婚のこだわり方は、減少傾向にあるが理想の相手を求める傾向が依然として高い。また、適当な相手にめぐり合わないために独身にとどまっている未婚者が多い現状にある。一年以内の結婚意欲は就業状況や経済状況に大きな影響を受け、非正規労働化が進展した2000年代において第二次ベビーブーム世代である30代後半の結婚観は、男性では経済的要因によって低迷し、女性は結婚したいけど適当な相手が見つからないという状況を示している。結婚相手に求める条件においても、職業や経済力を求める未婚者は女性だけではなく、男性でも増加しており、結婚資金を十分に準備できない経済状況などが結婚に対して大きな障害となっている。異性との交際状況も低迷しており、30代後半で交際相手のいない女性が急増していることや、友人として交際している異性のいる未婚者の低下が、特に男性や30代後半の女性でみられる。女性のライフコースについては、女性自身は再就職（34.1%、2010年）や両立（30.4%、同）、専業主婦（19.5%、同）を理想とするものの、実際は再就職（33.6%、2010年）、両立（23.5%、同）、非婚就業（20.3%）と就業を中心としたライフコースになると予測している。男性は女性に再就職（38.1%、2010年）、両立（32.7%、同）を望んでおり、今後も共働き夫婦や未婚女性が増加する可能性が示唆される。

一方、夫婦の子ども数と今後の出生意欲について、理想子ども数や予定子ども数などから概観した結果、晩婚化によって予定子ども数が低下すること、理想子ども数や予定子ども数が実現できない要因としては子育て費用や養育費がかさむこと、高年齢での出産を避ける等の年齢・身体的理由による影響がみられた。

晩婚化・晩産化が進展する中で、30代後半を含めた統計はより重要性を増すと考えられるため、本稿で行ったような分析の必要性は今後さらに高まるものと考えられる。

- 1) 1971年から1974年に生まれた世代で年間200万人以上の出生がある世代。
- 2) 一般にバブル経済崩壊後の1991年から2000年代後半の世界金融危機を含む20年間を示す。

## 参考文献

- 国立社会保障・人口問題研究所（2012a）『平成22年第14回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）第Ⅱ報告書 わが国独身層の結婚観と家族観』調査研究報告資料第30号。
- 国立社会保障・人口問題研究所（2012b）『平成22年第14回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）第Ⅰ報告書 わが国夫婦の結婚過程と出生力』調査研究報告資料第29号。
- 人口学研究会編（2010）「第2次ベビーブーム」『現代人口辞典』原書房、p.205。
- 人口問題研究所（1989）『人口問題研究所創立五十周年記念誌』平成元年8月。